

眼科医会、高額薬剤の薬価引き下げ要望 自民・眼科議連

2016年11月24日 20:49

既にスクラップ済みです。



総会の冒頭に挨拶する田村会長（中） = 24日

自民党の「眼科医療政策推進議員連盟」（田村憲久会長）の総会が24日に開かれ、加齢黄斑変性（AMD）の治療を巡り日本眼科医会が3つの要望を行った。患者負担の軽減と医療費削減につなげることを期待した要望で▽高額薬剤の薬価引き下げ▽患者負担を軽減するための制度の検討▽AMD患者に対し、抗がん剤「アバスチン」を使用できるようにすること―を盛り込んでいる。

総会では、眼科医会の山岸直矢副会長と日本眼科学会の竹内忍評議員が、AMD治療薬を巡る課題を説明した。その中で眼科用VEGF阻害剤について▽高薬価▽継続した多数回の注射が必要▽経済的な理由による治療中断が起きる―などと指摘。一方で、AMDに対しアバスチンは「ルセンチス」と同等の効果を持つと解説した。

薬価については、眼科用VEGF阻害剤ルセンチス（0.5mg 0.05mL）は15万7776円、同「アイリニア」（2.0mg 0.05mL）は14万2605円なのに対し、適応外使用ながらアバスチン（100mg 4mL）は4万1738円だと指摘。アバスチンの保険外併用療養の選択肢として、患者申出療養の活用にも期待感を示し「アバスチンは全額、患者が自己負担しても1回数千円以内。ルセンチスやアイリニアは保険診療で1割負担としても1万5000円程度、3割負担では約5万円」などと費用の違いを強調した。さらに眼科用VEGF阻害剤におけるアバスチンのシェアが40%になると仮定した場合、年間約300億円の医療費削減効果を見込むことができると訴えた。

これに対し厚生労働省は、患者申出療養について、将来的には保険適用を目指していくもので、製薬企業が最終的には薬事承認を目指すことを前提に計画されるため、実現は難しいとの感触を示した。

田村会長は、製薬企業側の立場にも言及しつつ、厚労省に対し、これらの課題の解決策を検討するよう求めた。

メディファクスWEB 2016年11月24日掲載
[許諾番号20161212_01] 株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

【国会・政党】の最新記事

与党「データヘルス推進議連」が設立総会 来年4月にも政策提言へ (2016年12月12日 20:24)